

## セルフ・ネグレクト

札幌市内で40代の姉妹が「孤立死」をして以来、今年に入ってから全国各地で「餓死」「孤立死」が相次いで発生しており、胸が痛みます。それと同時に、社会全体がまるで癌に冒されているような不安感、不気味さを感じずにはおられません。

こうした「餓死」や「孤立死」については、年々悪化する貧困問題に加え、生活保護をはじめとするセーフティネットが十分に機能していないという、いわば構造的な問題が指摘されていますが、同時に、マスコミなどでしばしば取り上げられている「セルフ・ネグレクト」についても無視することのできない問題となっています。今回は、この「セルフ・ネグレクト」の問題について考えてみることにします。

「セルフ・ネグレクト」というのは、一般に「自己放任」と訳され、「飲食などの体調管理や最低限の衛生状態の保持、金銭の管理などの行為をしない、あるいは、する能力がないため、安全や健康が脅かされる状態」をいうとされています。また、「セルフ・ネグレクト」の原因としては、本人の意志による場合と認知症などで物事を正しく判断できない場合、あるいはその両方が合わさっている場合が考えられます。

「セルフ・ネグレクト」というと直ぐに近所迷惑な「ゴミ屋敷」を思い浮かべる方が多いと思いますが、外形的にはそれに止まるものではありません。

- ・家の内だけでなく着衣も不衛生である
- ・家を何時も締め切っていて、外部の人を受け付けない、
- ・電気やガスも止められていて、どう生活しているのか分からない、

といった状況が見られる場合には、「セルフ・ネグレクト」を疑ってみる必要があるでしょう。

「セルフ・ネグレクト」の大きな問題は、極端にまで人との関わりを拒否していることであり、物事や自分の周囲のことに止まらず、自分自身に対する関心さえ持てなくなり、本来ならもっと他者に救いを求めても良いはずなのにそうした行動も起こさず、結果「餓死」や「孤立死」に至ってしまうとしたら、悲劇としかいいようがありません。こうなると「セルフ・ネグレクト」は「自

己放任」というよりは「自己放棄」、自分で自分を虐待しているといっても過言ではありません。

「セルフ・ネグレクト」の原因が認知症などの病気が原因の場合は、医療的ケアを含めたサポートによって解決が可能と思われませんが、自分の意志で「セルフ・ネグレクト」となっている場合には、他者に対する信頼の糸が切れているだけに解決は難しくなります。

ただ、私には、「セルフ・ネグレクト」に陥っている人には、その人の人生の行く過程に、社会や周りの人々をそこまで拒絶して止まない何か大きなことがあったに違いないと感じられます。例えば、過去に幾度か救いを求めたけれども取り合ってもらえず、全てに諦めてしまっているとか、小さい頃から苛めにあったり、馬鹿にされて育つ内に、自分の中に引き籠もったり、逆に他者に攻撃的になることで自分を守ろうとしているということも考えられるでしょう。少なくとも、「セルフ・ネグレクト」を個人のわがままという形で片付けることは、避けるべきです。

現状においては、「セルフ・ネグレクト」の問題は簡単に解決の付く問題ではありませんが、だからといって、決して手を拱いて済む状況でもありません。

目の前に自殺しようとする人がいたら、誰しものがそれを止めようとするはずですが。「セルフ・ネグレクト」の行き着く先は「孤立死」という蓋然性が非常に高い以上、行政や医療機関、更には福祉関係者が連携して、積極的な支援を可能とする仕組みを作るべきであり、その為にも、まずは実態をしっかりと把握する必要があります。（塾頭 吉田 洋一）